

第6章 連携プロジェクト事業

サミットの開催に向けて、「環境」「食」「観光」の分野に関する取組を道内で実施することとし、その取組内容を検討するため、平成19年(2007年)9月、道民会議の企画運営部会に「環境技術ワーキング」「道産食品利用促進ワーキング」「観光振興プログラムワーキング」を設置し、経済団体など民間主導で検討を行った。

その結果、「環境」では環境総合展の開催、「食」では道産食材マップなどのPRツールの作成、「観光」では「花いっぱいでおもてなしプロジェクト」「北海道フットパス事業」「空き店舗活用・観光PR事業」「雪まつり・冬まつり連携事業」について提案がまとめられたことから、これらを道民会議連携プロジェクト事業として位置付け、民間団体や地域が中心となってプロジェクトを推進するとともに、道民会議は経済界・産業界からの寄附金を活用し支援することとした。

1 北海道洞爺湖サミット記念環境総合展 2008

(1)開催に向けた取組

サミットでは環境問題が主要議題になるとされ、サミット開催を契機に、豊かな自然環境に恵まれた開催地北海道から、日本最先端の環境技術や北海道における環境への取組等を世界にむけて発信するため、環境に関わる総合展示会の開催に向けて取り組むこととした。

平成20(2008)年1月、高橋知事を委員長とし、北海道経済団体連合会、北海道商工会議所連合会、北海道経営者協会、北海道経済同友会、北海道大学、札幌市など計16の産学官の団体からなる実行委員会を設立した。実行委員会では、今回の環境に関わる総合展示会の名称を「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展 2008」と決定し、6月19日(木)から21日(土)の3日間、札幌ドームで開催することが決定された。あわせて、出展規模400小間、3日間で延べ6万名の来場を目標として掲げた。

北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展 2008 開催骨子

- 会 期：平成20年6月19日(木)～6月21日(土) 3日間
- 会 場：札幌ドーム
- 主 催：北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展 2008 実行委員会
 - ・委員長：北海道洞爺湖サミット道民会議会長 高橋知事
 - ・副委員長：上田札幌市長、近藤北海道経済連合会会長、高向(社)北海道商工会議所連合会会頭、佐々木北海道経営者協会会長、坂本北海道経済同友会代表幹事、佐伯北海道大学総長
 - ・実行委員：北海道、札幌市、北海道経済連合会、(社)北海道商工会議所連合会、北海道経営者協会、北海道経済同友会、北海道電力(株)、北海道瓦斯(株)、北海道旅客鉄道(株)、(株)北洋銀行、(株)北海道銀行、(株)北海道新聞社、(株)日本経済新聞社、(株)札幌ドーム、北海道大学、北海道洞爺湖サミット道民会議
- 開催趣旨：
 - ◇環境産業の最先端技術・最新情報の発信。
 - ◇環境ビジネスの新たな展開に向けたマッチング機会の創出。
 - ◇次世代に向けた、環境教育に関する魅力あふれる体験機会の提供。
 - ◇市民の環境に対する意識や取組の一層の促進。
 - ◇「環境センサーアイランド北海道」の世界に向けた発信。

実行委員会事務局は、札幌市内大通地下鉄コンコースの北洋銀行本店地下2階に設置し、道民会議事務局員は(株)北海道電力、(株)北洋銀行、(株)北海道新聞、(株)JR北海道、(株)松本建工、(株)中道リース、札幌市、北海道からの派遣を得て構成された。



オープニングセレモニーの様相 (6/19)

(2)環境展示

環境総合展の出展ジャンルは「バイオマス、新エネルギー・省エネルギー」「廃棄物処理・リサイクル」「環境技術・コンサルティング」「環境啓発・エコライフ」の4つとし、環境に関する技術・製品開発や取組を行っている企業・団体・官公庁・自治体・学校・NPO等を対象に出展募集を行ったところ、3月21日までの募集締め切りに、当初予定していた小間を大きく上回る1,000小間を超える申込みがあった。

予想を上回る申込みを受け、会場の可動式観客席を開放して収容能力を高めるとともに、屋外特設会場を設営し、併せて出展応募者に若干の小間数の削減をお願いするなどしながら小間数の調整を行った。

こうした調整により、環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省などの政府関係や、電力、ガス、石油、自動車、電機、流通などの幅広い分野から、333社・団体による760小間のブース出展(屋内アリーナ会場660小間、屋外会場100小間)という、北海道で初めてとなる大規模な環境イベントが実現した。

道内企業からも、高断熱省エネ住宅、雪氷エネルギー活用、ホタテ貝リサイクル、酪農農業分野の新技术など北海道らしい展示が多くなされた。



環境展示全景

(3)イベントの実施等

環境総合展では、環境への関心を高める工夫として、「環境展示」のほか4つのカテゴリーにわけたイベントを企画した。

ア ステージイベント

会場内に2つの特設ステージを設け、御手洗経団連会長をはじめとする来賓を迎えて行ったオープニングセレモニーや、地元服飾学校の学生たちと有名デザイナーが協力して開催する「エコファッションショー」や地球環境講座、子どもたちに大人気の戦隊キャラクターが環境汚染から地球を守るオリジナルステージショー等、3日間で30のイベントを開催した。

イ 環境フォーラム in 北海道

バイオマスの利活用の取組、地球温暖化対策、さらに北海道とロシアの研究者による自然環境についての意見交換など、環境問題に関する基調講演、シンポジウムやセミナー等、20企画を開催した。

ウ エコ体験イベント

次の世代を担う子どもたちに環境問題を体感してもらうことを目的に、自ら参加してエコを学ぶ体験教室等8種類のイベントを3日間で14回開催した。企業やNPOの主催により、地

球温暖化をクイズと実験で学んだり、パソコンを分解してリサイクルを学ぶ教室、燃料電池によるロボット操作や紙すき体験、キャンドルづくりなど楽しい体験教室が目白押しとなり、社会学習や修学旅行で訪れた小中学生も参加した。



子どもたちで賑わうエコ体験広場

エ エコカー展示・体験試乗会

自動車の環境対応について、燃料電池自動車、クリーンディーゼル自動車など最先端のエコカー19台の展示・試乗を行った。併せて、セグウェイやペロタクシーの体験試乗会を実施するとともに、JR北海道が開発したDMV（デュアル・モード・ビークル）も展示され人気を集めていた。



屋外会場に勢揃いしたエコカー

オ ビジネス交流会

環境総合展では、ビジネスマッチングの機会創出も行われた。一般来場者向けのイベントとは別に、出展者向けのイベントとして、「ビジネス交流会」を初日19日の夜に開催し、出展者の118社延べ200名の方に参加いただき、交流を深めていただいた。

出展者アンケート(有効回収数207)によると、3日間で「具体的な成約があった」企業が16件、「よい感触があった」と応えた企業が100件を超え、中には海外の下水道事業企業からのオファーを受け商談を進めている道内企業もあった。

(4)開催結果

当日は開場直後から大勢の来場者が詰めかけ、3日間で83,742名と目標来場者6万名を4割弱超える結果となり、来場者アンケートによれば、来場者の8割が「環境に対する意識が変わった」とし、また9割が「環境総合展での体験が生活やビジネスに役立つ」とされた。

【来場者数内訳】

6月19日(木)	26,666名
6月20日(金)	28,167名
6月21日(土)	28,909名
合計	83,742名

2 花いっぱいでお迎えプロジェクト

おもてなしの心と美しい花々で、来道する方々を歓迎するとともに、「美しい花の大陸・北海道」を国内外に発信するため、官民が一体となって、道路沿線の植花や、交通拠点等を花で装飾する「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト」を展開した。

(1)連絡調整会議の設立

道では、平成19年11月20日(火)に、経済団体や国出先機関、地元市町村、JR北海道、東日本高速道路、NPO法人ガーデンアイランド北海道等の関係機関からなる「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト連絡調整会議」を設置し、サミットに向けた花いっぴいの取組について検討・協議を行った。

その結果、①北海道全域で「花のおもてなし」、②北海道洞爺湖サミット重点拠点を花と緑で演出、③幅広い協力体制の実現、④統一的なデザイン、⑤プロジェクトの情報発信を方針とする「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト推進構想」を平成20年2月に策定し、官民が一体となって当該プロジェクトの推進に取り組むこととした。



北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト推進構想の概要

(2)キックオフセレモニー

平成20年4月22日(火)に道庁赤れんが前で、「キックオフ(kick-off)セレモニー」を開催、知事からの道民へのメッセージが披露され、花

いっぱいプロジェクトへの参加を呼びかけた。

また、セレモニーの参加者には北海道を形取って置かれたビオラの花苗が配布された。



キックオフセレモニー 道庁赤れんが前 (4/22)

(3)各地域の取組

洞爺湖町や留寿都村などサミット関連地域では、道路沿線でのプランターの設置や植樹枡への植花などの取組が14市町村、76地区で行われた。

特に、各国代表団が宿泊した洞爺湖温泉街では、植樹枡への植花や街路灯へのハンギングバスケットの設置を行うとともに、湖畔沿いに4カ所のビュースポットを整備するなどして、訪れた方々を花いっぴいでお迎えした。



また、国際メディアセンターが設置された留寿都村では、市街地の植樹枡へマリーゴールドを植えるとともに、「ルスツふるさと公園」への植栽や道の駅への花コンテナの設置などに取り組んだ。

サミット関係者が通行する沿道には、7月上旬

に開花時期を迎えるジャガイモを作付けし、サミット関係者をジャガイモの花でお迎えする取組も行われた。

また、ようてい農業協同組合では、「ようていポテトサミット35」として全36種類のジャガイモの「いもの見本圃」を道の駅(230ルスト)前に整備し、サミット期間中には、色とりどりの花を咲かせた。



いもの見本圃・留寿都村

J8サミットが開催された千歳市では、空の玄関口である新千歳空港ターミナルビルを花で修景するとともに、近隣のアウトレットモールレラの駐車場を利用して花の地上絵を作成し、航空機で来道される方々を花でお迎えするなど、全道各地で様々な取組が実施された。



花の地上絵・千歳市

各地の国道や道道では道路管理者と地域住民の協働により植樹柵などに花の植栽が行われた。

道路沿線の被害木の整理や記念植樹など森林整備による修景については、9市町村18地区で行われた。

また、札幌市内では各ホテルや百貨店・企業等が店先を花いっぱいでお迎えしたほか、7月4日(金)から8月9日(土)まで道庁赤れんが庁舎及び前庭でフラワーゲートの設置や庁舎内の花の装飾などを内容とする「花フェスタ in 赤れんが」が開催された。

(4)連携事業支援

道民会議では、「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト」を推進するため、市町村などが花の景観形成に向けて取り組む各種事業を支援することとし、重要拠点エリア等における市町村や地域づくり団体等が行う沿道の植花や道の駅、ポケットパークなどへの花コンテナの設置、技術指導などについて助成を行った。

助成に当たっては、国出先機関や経済団体による「G8北海道洞爺湖サミット連携事業実行委員会」を設置し、事業の円滑な推進を図った。

(5)民間企業等の取組

プロジェクトの推進に当たっては、様々な団体や企業の協力を得て実施した。

JR北海道では、札幌駅や洞爺湖駅をはじめ、全道の主要駅を花で装飾する「花の駅」や地域の方々が花で駅を装飾する「花の駅長さん」が展開された。

NEXCO東日本では、サミット関連地域のインターチェンジやサービスエリア等で花プランターの設置や花壇への植花を行い、歓迎気運を盛り上げた。

NPO法人ガーデンアイランド北海道では、全道124箇所の庭園や公園、お花畑などを会場として登録し、スタンプラリー等のPR活動を実施して、花観光地の周遊の促進と美しい花と緑の島・北海道をアピールする「ガーデンアイランド北海道2008」が4月26日(土)から10月31日(金)まで開催された。

また、(株)北洋銀行及び(株)札幌銀行の協賛により、洞爺湖温泉街のビュースポットに花コンテナを設置したほか、全道の花観光地や花カレンダーを掲載したパンフレットと「魅力的な花植えガイド」を提供いただき、飾花ボランティアの方々に配布された。

雪印種苗(株)からは、「雪印グループと道の連携と協力に関する協定」に基づき、ワイルドフラワーやキカラシの花の種の提供をいただき、希望市町村に配布し、花いっぱいでお迎えの取組に活用した。



3 北海道フットパス事業

道民会議企画運営部会に設置された「観光振興プログラムワーキング」において、環境を取り入れた北海道ならではのエコ・グリーンツーリズムを推進する観点から、北海道フットパス事業の推進が提案され、本道の新たな観光価値を創造し、道民や国内外の来道者に対し、自然環境や農村景観の保全に対する意識の高揚と観光客の健康指向に対応する取組として、官民が協力して推進することとした。

また、フットパス事業の推進に当たっては、サミットで道内外から多くの方々の訪問が見込まれる洞爺湖周辺地域をモデルとして自然と調和するフットパスコースを整備し、本道観光の新たな魅力を国内外にアピールするとともに、サミットを契機とした本道観光の振興をめざし、全道でのフットパス事業の定着と振興を図っていくこととした。

(1) 推進体制

洞爺湖周辺の1市3町(伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町)で構成するフットパス・エコツーリズム振興実行委員会を設置し、国関係機関等とも連携しながら展開した。

(2) 主な取組

ア モデルコースの設定

有珠山周辺及び洞爺湖周辺エリアに6つのフットパスコースを設定するとともに、有珠山・中島周辺では、コースの進行方向などを示した表示杭の設置や安全確保のための簡易なコースの整備を行った。

なお、四十三山コースは、北海道地方環境事務所が北海道自然歩道「火山回道」として整備を

※ フットパス：英国で発展した「歩行者用の小径」。英国では、牧場や森林などの田園地帯から海岸線や市街地の緑地帯などを人が歩く権利(通行権)を法的に認めてきた経緯があり、私有地であってもフットパスと承認されていれば、外国からの旅行者でも自由に通行できる道となっている。パブリック・フットパス(公共遊歩道)とも呼ばれる。

行い、6月15日(日)には完成を記念して自然学習会を開催した。

有珠山周辺整備エリアのコース	
・金比羅と西山コース	2.3km
・四十三山コース	4.2km
・明治・昭和新山と有珠山コース	6.0km

洞爺湖周辺エリアのコース	
・洞爺湖展望と果樹園コース	6.7km
・中島1周探検コース	7.6km
・財田・田園と湖畔を巡るコース	6.7km



噴煙を望むフットパスコース

イ エリアルートマップの作成

各モデルコースの順路、距離、高低差、留意事項、ビューポイント等を掲載したエリア・ルートマップを日・英版で作成し、サミット期間中にはインフォメーションセンターのほか、各ホテルに設置するなど広く配布し、PRを行った。

特に、明治43(1910)年に噴火した四十三山とその周辺の自然環境が約100年を経てどのように再生してきているかを目の当たりに観測できる「四十三コース」と平成12(2000)年に噴火した「金比羅山コース」については、火山研究者の監修によるルートマップ(日・英版)を作成し、配布した。

ウ エコツアー等の機会を活用したPR

サミット開催30日前には、地元の洞爺湖周辺エコミュージアム推進協議会を主体として観光客やエージェント等を対象としたツアーを実施した。

サミット開催直前には、北海道地方環境事務所と北海道運輸局が連携して実施した、海外メディア等を対象とするエコツアーでルートマップを配付するなどしてPRした。

また、日本エコツーリズム協会と連携して、10月3日(金)ー5日(日)に第10回エコツーリズム全国大会 in 洞爺湖を開催し、大会中日のエクスカージョン(見学会)においては、今回整備したコースを活用し、全国に洞爺湖地域のフットパスをPRした。

4 空き店舗活用・観光 PR 事業

「洞爺湖ふれあい情報タウン」

洞爺湖温泉街では、空き店舗が多数存在し、通りの賑わいや景観上の観点からも対策が求められていたことから、サミットの開催に向けて、全道での共通の課題である空き店舗対策のモデルとなるような取組として、空き店舗を活用した観光プロモーション等を実施することとした。

このため、洞爺湖周辺の1市3町で構成する「北海道洞爺湖サミット歓迎実行委員会」を設置し、胆振支庁管内の11自治体と胆振支庁を構成メンバーとする「北海道洞爺湖サミット胆振地域推進会議」（会長：室蘭市長）と連携して、サミット期間中に、約2kmの温泉街のメインストリート沿いの休館ホテル2棟と3つの空き店舗を活用し、インフォメーション・滞在支援や、胆振地域を中心に北海道や日本の食や観光に関する情報発信を行った。



来場者で賑わう洞爺湖ふれあい情報タウン

この事業の実施に当たっては、北海道運輸局、日本政府観光局(JNTO)などと連携して事業を展開した。

また、道民会議は、情報発信ブースの制作や運営体制の整備に対し支援を行った。

(1)洞爺湖ふれあい情報タウンの概要

ア ツーリスト・インフォメーション・センター

期間	平成20年7月1日～10日(9:00～22:00)
場所	洞爺湖温泉街 旧富士屋ホテル1F
内容	<p>インフォメーションカウンターの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語対応スタッフの常駐 ・温泉街や洞爺湖周辺観光情報の提供 ・地元ガイドによる洞爺湖のビュースポットや撮影スポットの紹介 ・洞爺湖・有珠山周辺のフットパスコースの紹介 <p>胆振地域の情報発信コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胆振支庁管内11市町の自然・歴史文化・特産品等の展示 ・ワイン・チーズの試食、マイ箸作り、ハーブの蒸留等体験コーナーの設置



インフォメーションカウンター

<オールいぶりフェア in TOYA >

期間	平成20年7月5日～7日
場所	旧富士屋ホテル・旧洞泉閣前庭
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ジンギスカン(厚真町)、やきとり(室蘭市)、メロン(むかわ町)などの地元特産物を無償提供 ・甲冑の武者の登場(伊達市)、むっくりの演奏体験(白老町)など地域文化の発信

<日本文化体験コーナー>

場所	洞爺湖温泉街 旧洞泉閣
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地元茶道家や高校生ボランティアによる茶道(野点)、華道、琴演奏の体験コーナー ・和菓子の製造実演 ・浴衣の着付け体験 ・北海道の自然の写真展(清水武男)

各会場への期間中の入場者数は、2,719名を数え、そのうち外国人は476名であった。



日本文化体験（生け花）



地域の魅力が満載のいぶりエリアゾーン

イ 空き店舗を活用した ECO 展

洞爺湖温泉街の営業休止の3店舗を活用し、風力発電やリサイクル技術など、環境関連産業に関するパネル、展示物、模型、映像等の展示を行い、胆振地域の最新の環境技術の情報発信を行った。

各店舗には、外国語を話せるボランティアを常時配置し、訪れたお客様に、温泉街の地理案内を行うなど、幅広く情報発信に努めた。

(2)ふれあい情報タウンの運営体制

ア ボランティアスタッフ

情報タウンのインフォメーションカウンターや日本文化体験コーナーをはじめ、洞爺湖エリアの主要箇所外国語のボランティアスタッフを延べ882名配置した。スタッフは、統一されたスタッフウェアを着用の上、温泉街・湖畔等を巡回し、土産物店や飲食店での言葉のSOS

に対応したほか、通りを歩く外国人にも積極的に笑顔で声かけを行うなど、街角で様々な交流を生み出した。

ボランティアは、地元のみならず、恵庭市の北海道文教大学や室蘭市の海星学院高校などからも参加した。特に、文教大学の学生総数47名は、期間中泊まり込みで中核的な役割を果たし、温泉街を訪問した首脳配偶者の案内にも抜擢された。



活躍するボランティア

5 雪まつり・冬まつり連携事業

サミット開催を契機として、将来に向けた飛躍的な北海道観光の振興を図るため、国内外の多様な地域から大勢の観光客が訪れる「さっぽろ雪まつり」をはじめ、道内各地の主要な冬まつりにおいて、サミット開催と北海道観光のPR事業を集中的に展開するため、観光関連企業や経済界、地方公共団体を構成員とする『G8北海道洞爺湖サミット「雪まつり・冬まつり事業連携会議」』（以下、「連携会議」という。）を設置し、様々な取組を展開した。

【連携会議の構成】

北海道運輸局、北海道洞爺湖サミット道民会議、北海道、札幌市、近畿日本ツーリスト(株)北海道営業本部、(株)JTB北海道、(株)日本旅行北海道、北海道旅客鉄道(株)、日本旅行業協会北海道支部、北海道経済連合会

(1)事業概要

ア 「さっぽろ雪まつり」におけるPR

「さっぽろ雪まつり」及び道内主要冬まつりにおいて、国のVJC（ビジット・ジャパン・キャンペーン）事業と連携してサミット開催と北海道観光の魅力の発信を行ったほか、「さっぽろ雪まつり」開催期間中、道内外の観光客や札幌市民に対しサミットの主要テーマである環境問題についての取組の紹介や北海道の食と観光の魅力を発信した。

【期間】 平成20年2月5日(火)～11日(月)

【場所】 大通公園、JR札幌駅南口広場ほか

【各会場でのPR事業内容】

《大通公園会場》

2月5日、大通西4丁目よみうり広場の「守りたい地球、子供たちの未来」大雪像前においてサミットをPRするイベント「GO！GO！G8サミット～知事・市長からのメッセージ」を開催し、高橋知事、上田札幌市長からサミッ

ト成功支援などの呼びかけを行った。

大通1丁目会場及び6丁目会場にPR用ブースを確保し、道民会議公式ポスター及びVJCポスターの展示や、各種観光用リーフレット等を配置・配布し、サミット開催及び北海道観光の魅力を発信した。

1丁目会場では、通訳接遇スタッフによる観光案内を行い、温かい飲み物も提供するとともに、特設スケートリンク・フェンス外周面の広告枠に、サミット開催及びVJC事業の宣伝告知用パネルを掲出した。

また、「さっぽろ雪まつり公式ガイドブック」に、サミット開催歓迎のメッセージ広告を日本語及び英語併記で掲載した。



大通4丁目 企業協賛による大雪像前で「GO！GO！G8サミット」ステージを実施



大通1丁目 サミット・観光振興PRブース



大通1丁目 スケートリンク・フェンスでのPR

《JR 札幌駅南口広場会場》

「さっぽろ雪まつり」期間に合わせ、JR 札幌駅南口広場に「サミット」、「環境」、「食と観光」をテーマとする PR 展示テントを設営し道内外の観光客や札幌市民に PR を行った。

・サミット及び北海道観光の PR ブース

道民会議の取組及び北海道観光のパネル展示やリーフレット等を配布するとともに、大型モニターでサミットや北海道観光の PR 映像を放映したほか、温かい飲み物(道産オニオン、コーン、カボチャスープ)を無料提供した。

・環境にやさしい取組 PR ブース

木質ペレットストーブの実演展示、CO₂削減をめざす道内各種交通機関の取組紹介やモニターによる環境にやさしい取組に関する映像の放映を行った。

・北海道の特産物、雪氷冷房の取組 PR と冬の北海道観光商品情報提供ブース

北海道の食や観光に関する PR パネル、リーフレットの展示や『北海道フードマイスター』資料による北海道の特産品 PR、雪氷冷熱活用の PR を行った。

なお、会場内においては「環境サミット」を意識した「エコカイロ」(何回でも繰り返し使える)などのノベルティを配布したほか、「かまくら」を造成、観光客の方々に体験してい

ただいた。



JR 札幌駅南口広場 サミット PR テント

《さとらんど会場、中島公園会場》

家族連れを対象としてサミットの周知を図るため、サミット開催を PR する看板ボードを掲出し、装飾用のイルミネーションも設営した。

【各種 PR ツールの制作】

《掲出物》

道民会議のシンボルマーク及び VJC 事業のロゴマークの入ったのぼり、横断幕、看板等《ノベルティ》

掲出物と同様のマーク入りのワッペン、キャンドル点灯用紙コップ、エコカイロ、英語・中国語・韓国語併記の全道イベントマップ等。

PR ツール



イ 道内各地の冬まつりにおける PR

道内各地の主要な冬まつりにおいて、サミット開催と北海道観光の PR 事業を集中的に実施した。

PR 事業を実施した主要冬まつり一覧

イベント名	期間
層雲峡氷瀑まつり	1/19 - 3/23
川湯ダイヤモンドダストパーティー	1/19 - 3/23
然別コタン	1/20 - 3/31
支笏湖氷濤まつり	1/25 - 2/17
十勝川白鳥まつり彩凧詩	1/26 - 3/9
阿寒湖氷上フェスティバル	1/26 - 3/25
函館イルミネーション	2/1 - 2/29
北の大地発見!あったか網走	2/2 - 3/9
知床オーロラファンタジー	2/5 - 3/22
洞爺湖温泉冬まつり	2/6 - 2/12
旭川冬まつり	2/7 - 2/11
小樽雪あかりの路	2/8 - 2/17
昭和新山国際雪合戦	2/23 - 2/24

第7章 地域の取組

1 札幌市

(1)札幌市の取組体制

ア サミット支援担当部

北海道洞爺湖サミットの成功を期し、道都としての責任を果たすため、平成19(2007)年10月1日(月)、総務局国際部の中にサミット支援担当部を設置した。

イ 札幌市サミット推進本部

平成19年10月15日(月)には、全庁をあげてサミット関連事業に取り組むべく、市長を本部長とする「札幌市サミット推進本部」を立ち上げた。同本部では、①サミット支援協力、②札幌の魅力発信、③環境都市としてのまちづくり、④市民の国際理解の促進、⑤市民の安全確保、の5項目を軸に各局が事業に取り組んだ。特に⑤に関しては、万全を期すために「安全対策推進部会」を設置した。

本部会議としては、サミット開催までに合計3回、安全対策推進部会は合計6回開催した。

(2)北海道洞爺湖サミット札幌おもてなし委員会

ア 委員会の設立と会議の開催

サミットを一過性のイベントとして終わらせることなく、将来の札幌にとってプラスになる契機として活用するという観点から、国内外から来札する多くのサミット関係者に、まちをあげて心の込めたおもてなしをし、札幌ファンを増やしていくことを目的に、平成19年12月25日(火)、官民一体となった「北海道洞爺湖サミット札幌おもてなし委員会」が設立された。

構成団体は、経済団体をはじめ、ホテル業界、運輸業界、都心部商店街、市民ボランティアグループなど合計35団体で、委員長は札幌市長、副委員長は札幌商工会議所の副会頭が務めた

(事務局は札幌市)。設立委員会では、①来札者の歓迎、②魅力の発信、③快適な滞在環境の整備、④おもてなしのレベルアップ、を目的にそれぞれの団体が事業に取り組んでいくこと、及び、おもてなしのロゴマークとテーマが決められた。

<ロゴマーク>

<テーマ>

札幌おもてなし
人と地球に思いやり



また、3月には実務者会議を開催し、各団体の取組状況の情報交換等を行ったほか、5月には分科会として「バナー部会」と「おもてなしシール部会」を設け、具体的な作業を進めた。

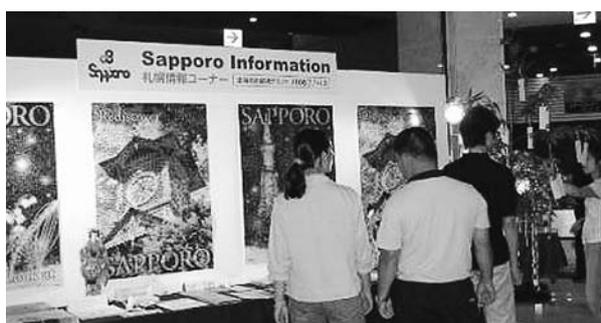
イ 取組内容

(ア)来札者の歓迎事業

横断幕・懸垂幕、バナーやステッカーなどの歓迎装飾や、花とみどりのおもてなし事業などを実施した。

(イ)札幌の魅力発信

外国語パンフレットやガイドマップの作成、インフォメーション機能の強化充実、海外報道機関対応などを実施した。



各ホテルに設けた札幌情報コーナー

(ウ)快適な滞在環境の整備

外貨両替のサービスアップ、外国語表示の充実、清掃事業などを実施した。

(エ)おもてなしのレベルアップ

G8 サミット・セミナー（全5回）や接客のための英会話研修、接遇研修、おもてなしシールの掲出などを実施した。



G8 サミット・セミナー「人間と環境」

(オ)その他

道民会議事業への支援協力、環境関連の事業、「札幌おもてなし委員会ニュース」の発行（全9号）を行った。

(3)こども環境サミット札幌

ア 概要

サミットの記念事業として、平成20（2008）年6月27日（金）から29日（日）までの3日間、こども環境サミット札幌実行委員会（札幌市、環境省、北海道、札幌商工会議所、(社)札幌青年会議所、北海道新聞社）の主催によりモエレ沼公園をメイン会場に「こども環境サミット札幌」が開催された。

国内外より小学5年生から中学3年生まで102名のこどもたちが参加した。そのうち海外からは、オーストラリア、中国、ドイツ、インド、フィリピン、韓国、ロシア、シンガポール、タイ、アメリカの合計10カ国40名のこどもたちが、国内からは道外5都市、道内11都市から62名が参加し、「地球の未来へ、いま、僕たち・私たちにできること」をテーマに、地球環境の現状や各国・各都市の環境問題について学び、ともに考えた。

イ プログラム内容

初日は、アルピニストの野口健氏による地球温暖化に関する基調講演に続き、各国・各都市による環境問題に関する発表会を行なったほか、「サッポロさとらんど」で記念植樹を行うと共に、市民交流会を開催し、日本の夏祭りの雰囲気を楽しんだ。

2日目は、西岡公園と札幌ドームを見学した

後、各グループで環境について活発な議論を行い、その内容を「こども環境サミット札幌宣言書」としてまとめた。宣言書には、具体的な行動が記述されており、世界中の人々が協調・協力し取り組んで行かなければならないと締めくくられている。

最終日は、鴨下環境大臣や世界で活躍しているアスリートをはじめ、多くの人たちが見守るなか、こどもたちによる「こども環境サミット札幌宣言」が高らかに力強く行われた。



宣言書を受け取る上田市長

(4) 市民メディアセンター

平成 20 年 3 月 26 日(水)、「G8 市民メディアセンター札幌実行委員会」から、国内外の NGO 等のメディア活動を支援する「市民メディアセンター」の設置場所の提供に関する要望書が札幌市に提出され、度重なる協議及び近隣住民への説明を経て、旧札幌天神山国際ハウス(平成 20 年 4 月より閉館)の一部を、6 月 18 日(水)から 7 月 11 日(金)まで、無償で貸与した。

6 月の開設準備期間中は 1 日平均 10~15 名程度、7 月以降は海外からの市民メディアも含め 50~60 名程度の利用があり、市民の目線で取材した情報が札幌から世界に発信された(登録団体数 7、登録使用者数 82 名)。



写真左：市民メディアセンターとして貸与された旧天神山国際ハウス、右：簡易なスタジオ

2 千歳市

(1) J8 サミットの開催誘致・決定

千歳市は、J8 サミットを平成 20 年の市制施行 50 周年の記念として誘致するため、これまでの国際会議開催の経験とサミットが開催される洞爺湖と豊かな自然環境を有する支笏湖での J8 サミットの開催を「ツインレイク(二つの湖)・サミット」としてアピールした「開催企画書」を策定し、平成 19 年 8 月 1 日付けで外務大臣に提出した。

平成 19 年 10 月 19 日(金)に外務省から報道発表が行われ、支笏湖周辺地域を含む千歳市を会場とする「J8 サミット 2008 千歳支笏湖」の開催が決定した。

(2) 市民実行委員会

平成 19 年 12 月 27 日(木)に産業界、教育界、支笏湖地区をはじめとする町内会組織などの関係団体と、公募による個人と団体が参加し、「J8 サミット 2008 千歳支笏湖市民実行委員会」が組織され、総務・企画、事業推進、広報宣伝、安全対策の 4 部会を設置した。

また、平成 20 年 3 月 9 日(日)に市内の防犯協会や交通安全協会など 17 団体が参加した「ツインレイクサミット千歳支笏湖地域安全協力会」が結成され、市民実行委員会とも連携しながら、北海道洞爺湖サミットと J8 サミットの安全・安心の確保への対応に努めた。

(3) 活動内容の概要

ア エコプロジェクト及び PR 活動

J8 サミットが環境を主要なテーマとしていくことから、エコプロジェクトによる「アイドリリングストップ運動」が開催の気運を高める事前の PR 活動の意味も併せて実施されるとともに、開催をアピールするポスター掲示、街路灯へのバナー設置など開催直前まで PR の充実

が図った。また、サミットの安全対策も併せて、防犯や防災など危機発生時への対応のため、パンフレットの配付や街頭での啓発活動を実施した。

イ J8 サミット受入の取組

実行委員会では、エコプロジェクト、浴衣プロジェクト、支笏湖プロジェクト、文化センタープロジェクト、通訳プロジェクトの計5プロジェクトにおいて、受入実施計画の策定の検討や受入れ活動が実施された。6月には「J8 サミット 2008 千歳支笏湖 受入実施計画」を策定し、歓迎・交流、広報宣伝、安全対策に係る計22事業を実施した。

歓迎・交流事業では、支笏湖畔で「開会式・フィールドトリップ」、「支笏湖湖水まつりへの参加」、「閉会式」を開催し、また、市内ホテルでは、7月4日(金)に青少年の交流を主体とした「Chitose Night」を開催し、J8 参加者全員が浴衣を着用し、盆踊りや茶道、剣道演武など日本文化を楽しんだ。

さらに、宿泊施設に「ヘルプデスク」を設置したほか、会議場でのコーヒー等飲料の提供などきめ細かなおもてなしが行われた。

広報宣伝事業では、ブログ形式によるホームページでの情報配信、「千歳宣言」とJ8 参加者のサイン入り記念プレートの作製などを実施した。

安全対策事業では、開催期間中の屋外イベントにおけるパトロールや宿泊施設ヘルプデスクへの看護師の配置などを行った。

なお、これらの事業には、延べ525名のボランティアが参加した。



「Chitose Night」で浴衣を着て盆踊りを行う J8 参加者 (7/4)

(4) J8 サミットに関連する取組

平成20年5月には市内の小中学生が陸上競技場に集結し、約4,000人の規模で「ちとせつ子未来フォーラム(同実行委員会主催)」を開催し、環境問題に対する意見交換をしたほか、企業・団体による歓迎のための活動をはじめ、町内会や各通り会でも花植えや清掃、防犯パトロールを実施するなど、多くの市民がJ8 サミットに関わりを持った。

3 胆振支庁管内

(1) 推進体制の整備

ア 北海道洞爺湖サミット胆振地域推進会議

サミット開催の1年前となる平成19年7月6日(金)、胆振管内の11の市町と胆振支庁を構成員とする北海道洞爺湖サミット胆振地域推進会議(会長：室蘭市長)(以下「推進会議」という。)を設置し、胆振地域の市・町が一体となってサミットの受入体制を構築し、おもてなしの気運を図るとともに、胆振地域の魅力を発信し、地域の活性化と継続的なにぎわいを創出するため、胆振地域全体でサミットに関係する各種取組を行った。

イ 市町村における推進体制

サミット開催地周辺の洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、登別市においては、地域が一体となってサミットを受け入れるため、行政機関、経済団体、市町民団体が参加する組織を設置し、各種の歓迎事業や住民向け広報誌の発行、歓迎装飾の実施などに取り組んだ。また、室蘭市、豊浦町、むかわ町では、庁内にサミット推進会議等の組織を設置し、サミットの受入体制を整備した。

・官民によるサミット推進体制

名称	設置月日
洞爺湖町北海道洞爺湖サミット推進町民会議	平成19年6月28日(木)
北海道洞爺湖サミット壮瞥町民会議	平成19年7月20日(金)
北海道洞爺湖サミット推進伊達市民会議	平成20年3月10日(月)
北海道洞爺湖サミット登別市民連絡会議	平成20年3月26日(水)

(2) 主な取組

ア 地域の情報発信

(ア) 1年後の再会を願うイベント

サミットの成功に向けた気運を盛り上げるとともに、胆振地域の多様な魅力を発信するため、推進会議では札幌市と洞爺湖町においてイベン

トを実施した。

・「1年後の再会を願うイベント」の概要

行事名	内容
胆振の魅力発信 & サミットアピール at Sapporo	もちつきばやし(洞爺湖町)、アイヌ民族舞踏(白老町)、熊舞(登別市)を披露。 ・開催日 平成19年8月7日(火)、8日(水) ・場所 札幌大通公園ピアガーデン会場 ・主催 推進会議 協力:サッポロビール(株)
「魅力発信とうや! いぶりフェア」 at Town TOYAKO	・温泉街の空き店舗を活用してアンテナショップを開設し、海の幸盛りだくさんの「洞爺湖サミット弁当」などや地域自慢の逸品、洞爺湖マーク入り・天然素材藍染の「サミット・バージョンエコバッグ」を限定販売したほか、登別温泉の湯の華を来場者に無料配布。 ・ボルタ作成体験、縄文体験、藍染め体験などの地域文化体験コーナーを設置。 ・開催日 平成19年8月11日(土)、12日(日) ・場所 洞爺湖町温泉街、遊覧船乗り場前イベント広場 ・主催 推進会議

(イ) 洞爺湖ふれあい情報タウン(再掲)

サミット期間中、洞爺湖温泉街の休館ホテルと空き店舗を活用したインフォメーション・滞在支援や、胆振地域を中心とした食や観光に関する情報発信を行った。(洞爺湖ふれあい情報タウンの詳細は、P130 参照)

(ウ) エコミュージアムジオツアー

洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会(構成：伊達市、洞爺湖町、豊浦町、壮瞥町)は、サミットに向けて、新たなツーリズムのモデルを示す「エコミュージアムジオツアー」等の受入を整備し、洞爺湖周辺地域の地域資源や情報を発信するため、サミット開催30日前の平成20年6月7日(土)～8日(日)、洞爺湖周辺地域のエコミュージアム主要拠点を巡るツアーを旅行代理店と連携して企画・実施した。

(エ) 観光パンフレット、HP等による情報発信

胆振支庁管内4市4町がサミット関連情報のウェブサイトを開設し、地域の情報発信を行った。このうちアメリカの政府代表団等が宿泊した登別市では、G8各国大使館に観光パンフレットを送付したほか、英語、韓国語、中

国語の観光パンフレットを作成し外国人へ温泉観光をPRした。また、サミット関連ウェブサイト(一部英語)を開設した。洞爺湖町では、サミット関連ウェブサイトの英語版HPや「環境都市宣言／エコロジーを発信するまち洞爺湖町」の中国語、英語版HPの開設、英語版パンフレットの作成・配布を行うなど多言語による情報発信を行った。壮瞥町では、サミット関連ウェブサイトの英語版を開設した。

また、洞爺湖温泉飲食店組合では、サミット開催に向け、各加盟店の情報を紹介したホームページを開設した。

イ 歓迎気運の醸成

(ア) 歓迎装飾の取組

サミット歓迎気運の醸成やサミット関係者を歓迎するため、洞爺湖町では平成19年11月から洞爺湖温泉街、JR洞爺駅に歓迎バナーを掲出したほか、12月には温泉街入口に歓迎塔を設置した。

サミット開催200日前歓迎装飾の取組では、壮瞥町が町役場への歓迎横断幕の設置や昭和西山入口への多言語歓迎看板の設置などを行った。

また、平成20年1月から5月にかけて、室蘭市、登別市、伊達市、白老町、厚真町、安平町においてサミット歓迎装飾共通デザインを使用した懸垂幕や看板、ポスターなどが掲出された。



国道36号線の歩道橋に掲出された歓迎横断幕(室蘭市)

(イ) 歓迎シール、ステッカー

洞爺湖町サミット推進町民会議では、平成20年3月、サミット歓迎気運を醸成するため、

日本政府の公式ロゴマークのコンテストで優秀賞に輝いた洞爺湖町虻田中学校2年の原綾香さんのデザイン画をもとにしたサミットステッカーを作製、各家庭に配布した。

また、経済・観光団体の取組としては、洞爺湖町商工会が平成19年7月、洞爺湖温泉観光協会が平成20年2月にそれぞれ独自のサミット・シールを作製し、お土産などのパッケージや包装紙に添付するなどして使用し、サミット歓迎のムードを盛り上げた。また、登別観光協会は、平成20年2月にサミット歓迎シールを作製し、市内各ホテル・旅館、商店、飲食店などに配布した。



デザイン左：洞爺湖町作製サミットステッカー、右：洞爺湖町商工会作製サミット・シール

ウ おもてなしの充実

(ア) クリーンアップ運動

【ぐるっと洞爺クリーンアップ作戦】

サミット開催に伴い国内外から訪れる方々をきれいな環境でお迎えするため、推進会議では、洞爺湖周辺の主要な交通ルート沿いの「ぐるっと洞爺」エリアについて、平成19年9月と平成20年5月、民間企業の支援のもと沿道のポイ捨てゴミの収集などの一斉活動を実施した。

行事名	内容
ぐるっと洞爺クリーンアップ作戦	・実施日 平成19年9月30日(日)
	・場所 伊達市全域、豊浦町全町、洞爺湖町(温泉街、本町、月浦、花輪、洞爺)、壮瞥町(昭和新山、近隣道道沿道)
	・主催 推進会議、伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町
	・協力 日本たばこ産業(株)、サッポロビール(株)
	・参加者 地域住民、民間企業ボランティア、行政機関など

行事名	内容
ぐるっと洞 爺クリーン アップキャ ンペーン	民間企業の支援により、札幌周辺地域などの 方々に無料清掃ツアーに参加いただき、連休明 けの洞爺湖周辺地域のクリーンアップを実施。 ・実施期間 平成20年5月11日(日) ・場 所 洞爺湖町(温泉街・湖畔、月浦地区、 西山火口周辺)、豊浦町(桜地区、有 珠地区) ・主 催 推進会議 ・協 力 (株)JTB北海道 ・参加者 札幌圏住民ボランティア360名

【おもてなしクリーンアップ運動】

推進会議では、伊達市、豊浦町、洞爺湖町、
壮瞥町の洞爺湖周辺1市3町と洞爺湖周辺エ
リアの沿道環境美化について協議し、例年の
ポイ捨て等の実態を勘察し、5月の連休前の平
成20年4月20日(日)、連休明けの5月11日
(日)と、厳重な警備体制が敷かれる開催直前6
月22日(日)の三段階でクリーンアップ運動を
実施した。

また、登別市では、6月1日(日)に「道道洞
爺湖登別線温泉誘い街道創出作戦」を市や室蘭
土木現業所のほか、民間企業76社の参加によ
り、道央自動車道登別東ICから紅葉谷交差点
までのごみ拾いや、車道洗浄車による清掃など
を行った。また、6月22日(日)に、「サミット
記念クリーン作戦」を町内会や衛生団体連合会
の参加により市内全域で実施したほか、厚真町
でも6月5日(木)に「おもてなしクリーンアッ
プ運動」を展開するなど管内全域で清掃活動の
取組が行われた。

【(イ)花いっぱいでお迎え】

サミット開催に伴い訪れる方々を「花」で歓迎
するとともに、美しい景観と優れた環境を世界
にアピールするため、推進会議では、「花いっば
いでお迎えプロジェクト」と連携し、洞爺湖周
辺1市3町や登別市等に呼びかけ、官民が一体
となった飾花による街並み環境の整備を行った。

・主な取組一覧

行事名	内容
花いっばい でお迎えプ ロジェクト (登別市)	道道の植樹帯や中央分離帯の花壇に宿根草の 植栽や桜などの花木の植栽を実施。 ・実施日 平成20年4月―7月 ・場 所 道道洞爺湖登別線 ・主 催 登別市、登別観光協会、町内会、登 別市、ホスピタリティ・登別まちづくり 促進期成会など約500名
インター通 り花壇 づくり (伊達市)	道央自動車道ICと国道37号線を結ぶ道道の中 央分離帯への植栽、国道37号線沿道(伊達警 察署、道の駅周辺)の花壇整備などを実施。 ・実施日 平成20年6月11日(水) ・場 所 道道伊達インター線等 ・主 催 サミット推進伊達市民会議 ・参加者 市民など約80名
花いっばい でお迎えプ ロジェクト (豊浦町)	ザ・ウインザーホテル洞爺に繋がる町道と道道 との交点へのマリーゴールド等の植栽や、プラン ターの設置、市街地主要道へのプランターの設 置などを実施。
花いっば い運動 (壮瞥町)	町道へのマリーゴールド、ひまわりの植栽・播 種、昭和新山園地周辺の飾花などを実施。 ・実施日 平成20年6月15日(日) ・場 所 町道昭和新山第2線 ・主 催 壮瞥町、サミット壮瞥町民会議 ・参加者 壮瞥町民など約200名
花いっばい でお迎えプ ロジェクト (洞爺湖町)	温泉街メインストリート及び並行する道道の飾花 (ハンギングバスケット、パネル、プランター、歩 道柵植栽など)、日本政府代表団作業所周辺の 飾花、JR駅周辺の飾花などを実施。 ・実施期間 平成20年5月～6月 ・場 所 洞爺湖温泉街、JR洞爺駅等 ・主 催 サミット推進町民会議

【(ウ)通訳ボランティア等外国人受入環境の 整備】

【通訳ボランティア】

推進会議では、ふれあい情報タウンにおける
外国語対応にあたるボランティアスタッフを延
べ882名配置した。

登別市では、登別温泉街での外国語のボラン
ティア通訳を募集・登録し、平成20年7月1
日(火)から10日(木)まで、ホテルや観光協会
に派遣した。また、洞爺湖町では、平成20年
6月22日(日)に語学ボランティア研修会の実
施などに取り組んだ。

【外国人観光客への案内態勢の整備】

登別市では、サミット開催に伴い多くの外国
人が訪れることが予想されたため、観光案内
などにおける外国語表記の整備をすすめたほか、

平成20年2月には「ビジット・ジャパン案内所」を開設した。

(エ) G8 首脳等の歓迎セレモニー

管内市町では、伊達市にカナダ首相夫妻が訪問したほか、室蘭市にはフランス、イギリスの駐日大使が、白老町にはインドネシア大統領夫人、J8 サミット参加者等が、洞爺湖町には駐日イギリス大使が、また、壮瞥町には、駐日フランス大使がそれぞれ訪問し、2市3町において、地域住民と一体となったおもてなしの行事を行った。

また、登別市では、アメリカ政府代表団の宿泊先となっている登別グランドホテルで、アメリカの独立記念日に合わせて7月4日(金)、歓迎セレモニーを行い、記念品の交換や伝統芸能の披露を行った。

エ 環境・子ども

(ア) カウントダウン・イベントの実施

環境・気候変動が主要テーマとなったサミットの開催を契機に、地域における環境意識の高まりを形あるものにするため、推進会議では、サミット開催200日前から節目に合わせて様々な取組を行った。

【サミット200日前の取組(平成19年12月22日)】

- ・「目に見えないトドマツを植える挑戦」

推進会議では、胆振地域の4市7町の4,300名の職員の一人ひとりがサミット開催100日前までに「1人1日1kgCO₂削減」の登録を目指し、職員の心に、目に見えない木を植える(CO₂排出削減)ことに挑戦することを宣言した。サミット開催100日前には、約8割の職員が登録し、また、地域住民の登録運動に発展する自治体もあった。

【サミット100日前の取組(平成20年3月29日)】

- ・「未来の扉の鍵」いぶり宣言

推進会議では、サミットの成功を祈念し、先人から受け継いできた豊かな自然を守り、次の

世代に引き継ぎ、自然とともに生きる知恵を未来の扉を開ける「鍵」として子どもたちに託すため、各自治体が行う地球温暖化防止のための取組をまとめ公表した。

- ・ペットボトルキャンドルナイト

胆振地域の市町各地で、ペットボトルキャンドルにより、「G8 SUMMIT」の火文字やとうろくづくり、ジャズコンサートなど様々なイベントを開催し、歓迎ムードを盛り上げるとともに、翌日に行われる「ガイアナイト」の参加を呼びかけた。

【サミット50日前の取組(平成20年3月29日)】

- ・「緑はどうなった？」授業番外編

噴火による破壊と再生を繰り返す有珠山の「緑の再生」に関わり、環境を守ることの大切さと火山との共生などを学ぶため、2000年の噴火により学校を失った洞爺湖温泉小学校において実施してきた「緑はどうなった？」授業を地域全体に広げ、継続していくことができるよう、サミット開催50日前となる平成20年5月18日(日)に「緑はどうなった？」授業番外編として実施した。

この授業には環境先進国であるデンマークから環境大使の「グリーンサンタ」も駆けつけ、子どもたちを励ました。また、翌19日には、登別の小学校に国産材による机・椅子のプレゼントを行うとともに、環境をテーマとするサミットの成功に取り組んでいる知事への表敬訪問を行った。

(イ) 胆振・環境チャレンジ運動

環境と調和した地域づくりを加速し、環境意識を次世代に承継するため、胆振支庁は、職員のCO₂削減に向けた率先行動を行ったほか、市町や地域の企業・団体・住民と連携して「胆振・環境チャレンジ運動」に取り組んだ。

【意識啓発】

地球温暖化防止に向け、支庁の率先行動とし

て、「レジ袋N & O 作戦」(レジ袋ノーとカーボンオフセット募金を組み合わせた取組)を実施したほか、管内の市町と連携し、家庭での取組を促進するための親子向け学習会や地域の企業・団体の事業活動における取組を促すためのセミナーを開催した。

【企業との連携】

環境関連産業の育成・振興を図るため、胆振の企業・団体の環境技術や取組等についての情報収集とその発信に向けた取組を行った。

【環境活動の盛り上げ】

企業と連携した森林づくりや管内各地で開催された植樹祭などの支援を行ったほか、各地で環境学習イベントが活発に展開されたことを踏まえ、人材のネットワークづくりに向けた取組を通じて、地域の環境活動の持続を図るための基盤づくりを行った。

【ウ）チーム洞爺湖マイナス 50% 事業】

伊達市、洞爺湖町、豊浦町及び壮瞥町の胆振西部 4 市町が中心となり設立した洞爺湖地域温暖化対策まちづくり協議会では、サミット開催地の美しい自然景観や環境を保全するとともに、2030 年における温室効果ガスの排出量を半減することを目標とし、産業施設を中心に環境負荷の低減と経費節減を具体的に推進する「チーム洞爺湖マイナス 50% 事業」を立ち上げ、環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」を活用し、産業の活性化、環境と経済の好循環を図った。

・ チーム洞爺湖マイナス 50% 事業のメニュー

区分	内容
ソフト事業	ポスター、リーフレット等の作成、CO ₂ 削減効果測定手法の検討等
ハード事業	野菜貯蔵用雪蔵(雪エネルギー利用:洞爺湖町)、SVFディーゼル車(廃食用油利用:洞爺湖町)、ペレットストーブ(木質ペレット利用:洞爺湖町・壮瞥町)、温泉ヒートポンプ(温泉水源熱利用:壮瞥町)、ペレット製造施設(木質ペレット製造・伊達市)、農業ハウス用炭窯余熱利用ボイラー(炭窯余熱利用・壮瞥町)、BDF製造施設(廃食用油燃料製造・伊達市)、農業用ハウスペレットボイラー(木質ペレット利用・伊達市)等

【エ）管内各地の環境・子どもイベント等】

推進会議では、サミット開催 100 日前となる平成 20 年 3 月 29 日(土)に「未来の扉を開く鍵を子どもたちに」を合い言葉とした「いぶり宣言」を発表し、管内市町において環境や子どもに関する様々な取組が行われた。

・ 主な取組一覧

行事名	内容
地球環境フェスタ 2008 (室蘭市)	若者による室蘭の未来をテーマにした提言発表はじめ、省エネ住宅に関する講演会、地元企業によるエコライフ展などを実施。 ・開催日 平成20年6月28日(土) ・場 所 室蘭市蓬らい殿 ・主 催 室蘭市、(財)室蘭テクノセンター、リサイクル協働市民協議会 ・参加者 市民約250名等
子ども宇宙サミット (苫小牧市)	宇宙から見た地球環境をテーマに、国内外の子どもたちが意見交換等を実施。 ・開催日 平成20年5月23～25日(3日間) ・場 所 苫小牧市民会館、苫小牧市科学センター ・主 催 子ども宇宙サミット実行委員会 ・参加者 国内20名(小中高校生)、海外9名(ツバル、韓国、香港、インドネシア、オーストラリア)
のぼりべつこども環境サミット (登別市)	市内の小学生在環境活動実践例の発表と環境宣言書の作成・宣言及び地球温暖化に関する実験や体験学習を実施。 ・実施日 平成20年6月28日(土) ・場 所 登別市民会館 ・主 催 登別市ほか ・参加者 市内小学生約100名
だて環境子どもサミット (伊達市)	市内の小中学生を対象に環境問題・サミットに関する講演や話し合い、宣言の作成を実施。 ・開催日 平成20年5月25日(日) ・場 所 だて歴史の杜カルチャーセンター ・主 催 伊達市 ・参加者 市内小学生約40名
J7あびら環境サミット (安平町)	町内小中学校の子どもたちが、環境保全の取組について意見交換を実施し、「私たちのエコロジー行動目標」を採択。 ・開催日 平成20年6月21日(土) ・場 所 安平町内 ・主 催 安平町、安平町教育委員会 ・参加者 町内小中学生代表 13名
むかわ地球にやさしいふるさとづくり (むかわ町)	町内外の小中学生を対象に、子どもたち自らが環境を考える心を養うため、むかわの自然を舞台に自然体験や植樹を実施。 ・開催日 平成20年6月28日(土)～29日(日) ・場 所 むかわ町穂利仁和地区 ・主 催 地球にやさしいふるさとづくり推進会議 ・参加者 町内外小中学生延べ274名

(オ)記念植樹

洞爺湖周辺市町を中心にクリーンラーチの苗木の植栽などを行う「北の大地の道民環境森林づくりリレー」が伊達市、壮瞥町、豊浦町、洞爺湖町、苫小牧市で実施された。

また、サミット開催を記念して、厚真町では、民間企業と連携して「木を植えて環境を考える植樹会」を開催、安平町では、グリーンダム構想に基づいた安平ダム計画跡地での植樹祭を実施した。

さらに、壮瞥町では、「サッポロビールの森～北海道洞爺湖サミットの森づくりボランティア植樹祭」として、協賛企業の社員、地元小学生、地元関係者など約160名が参加して、森林づくりを行った。

(カ)エコ・ギャラリー

環境省北海道地方環境事務所ではサミットが開催される洞爺湖地域を訪れる国内外の来訪者に環境問題を普及啓発することを目的として、平成20年6月1日(日)から8月31日(日)までの間、支笏洞爺国立公園の洞爺湖ビジターセンター敷地内において、仮設の展示施設「エコ・ギャラリー」を開設した。国内外から多くの来場をいただき、入場者は計50,185人となった。

また、北海道旅客鉄道(株)では、サミット開催期間中の平成20年7月4日(金)から10日(木)まで、洞爺湖ビジターセンターにおいて、国内外の報道機関等に対し、線路と道路を走行できる北海道発の自然環境に優しい交通技術であるDMV(デュアル・モード・ビークル)の走行デモンストレーションを行った。



エコ・ギャラリーでの1日1kg宣言の様子



JR 北海道の DMV 走行デモンストレーション

4 後志支庁管内

(1) 推進体制の整備

ア 後志支庁サミット推進会議の設置

平成19年6月20日(金)、管内各市町村長等を構成員とした後志支庁サミット推進会議(会長 蘭越町長)(以下「推進会議」という。)を設置し、地域の活性化を図る各種取組を連携して行うとともに、サミットの概要や管内各地域の取組などの地域住民への周知を通じ、サミットへの理解促進と気運醸成を図った。

イ しりべしサミット・ウェルカムプロジェクト実行委員会の設立

平成20年3月28日(金)、後志支庁管内全20市町村及び経済団体等41団体を構成員とする「しりべしサミット・ウェルカムプロジェクト実行委員会」(会長 ようてい農業協同組合組合長)(以下「実行委員会」という。)を設立し、様々な歓迎プロジェクトの事業化を図った。また、ボランティア参加による「サミット・しりべしサポート隊」を募集し、通訳12名ほか計20名のボランティアが「花いっぱいでお迎えプロジェクト」や「北のまるしえ」などの取組を支えた。

ウ 市町村における推進体制

国際メディアセンターが設置された留寿都村では、平成19年10月15日(月)、「北海道洞爺湖サミット推進村民会議」が、また、「北のまるしえ」が開催された真狩村では、平成20年5月14日(水)、「真狩村サミット推進村民会議」が設立され、地域が一体となり報道関係者など関係者への情報発信や来訪を歓迎する取組を展開した。

(2) 主な取組

ア 地域の情報発信

(ア) 北のまるしえ

後志の食の魅力を中心に、海外報道関係者の

方々を介して世界にPRするため、新鮮で高品質な地域の食材等に的を絞り、それらを中心に
出展するイベントを市場(マルシェ)形式で開催した。

平成20年7月5日(土)のオープニングセレモニーには、高橋知事、藪中外務事務次官が来賓として出席、7月8日(火)には、G8首脳配偶者が来場し、20分ほど視察・試食いただいたほか、しりべしプレスツアー参加者も訪れた。

【北のまるしえの概要】

《開催日》 平成20年7月5日(土)、6日(日)、8日(火)

《場 所》 真狩村まっかり温泉駐車場

《主催者》 実行委員会

《会場構成》

後志の食材を中心に売り出す「物販ブース(テント)」、その素材の良さを生かした調理でもてなす「フードコート(ビニールハウス)」の2つのゾーンから構成。

〈物販ブース〉

テントなどのハード部分のつくりは粗野に、食材等の出展品は、高品質であることを条件とした。

特製テント(1張り 3m×5m)10張りを設置し、野菜類31品目、魚介類22品目、花き10品目、加工品50品目を販売した。

【具体的なアプローチ】

- 対面販売・量り売りが基本(花ブースを除く)
- 並べ方については、種類ごとにゾーニング
- 出品物は豊富に陳列
- 野菜や果物は、土付き、葉付き
- 魚介類については、発泡スチロールに氷を敷き、販売
- ハム、ソーセージや乾物は出展品をテントにつるす演出
- 陳列については、彩り鮮やかに
- ポップは黒板にチョーク
- 買い物客から見たテントの後方がポイント



写真左：来場者で賑わう物販ブース、右：しりべしプレスツアーで訪れた外国人記者

〈フードコート〉

マッカーリーナスタッフとニセコ町料理研究会「じゅうごばあ」とのコラボレーションによる素材の味を生かした旬野菜・肉みそ添え、ほお葉で包む山菜おこわ、カボチャスープなどの物販ブースで売っているものを試食できるようなメニューを提供した。

(イ)しりべしプレスツアーの実施

サミット期間中、実行委員会では国際メディアセンターに勤務する海外からの報道関係者を主な対象とし、管内の自然や食、観光といったさまざまな魅力を世界に発信するため、それらを体感していただくためのプレスツアーを実施した。

・ニセココース

開催期間	7月5日(土)～6日(日)
訪問先	ミルク工房(綺羅街道)、ビュープラザ、北のまるしえ会場
参加者数	6日は3名(アメリカ2名、ハンガリー1名)

・小樽コース

開催期間	7月10日(木)
訪問先	天狗山山頂、小樽運河、小樽貴賓館ほか
参加者数	6名(中国3名、ハンガリー1名、シンガポール1名、日本1名)

(ウ)財フォーリンプレスセンター・プレスツアー歓迎夕食会

推進会議は、財フォーリンプレスセンターが実施した在京外国報道関係者を対象としたプレスツアーを歓迎する夕食会を平成19年8月30

日(木)にニセコ町ホテル甘露の森において開催した。夕食会では、参加した海外報道機関の記者17名の方々を羊蹄太鼓で迎え、後志管内産の食材を使用した料理や飲み物を振る舞ったほか、特産品やパンフレットなどを配布するコーナーを設け、管内各市町村を紹介した。

(エ)観光パンフ、HP等による情報発信

実行委員会では、世界からの来訪者がリピーターとなるような魅力ある情報を発信するため、国際メディアセンターが設置されたルスツリゾート内にパンフレット棚を設置し、管内各市町村の観光パンフレット約5,000部を据え置いた。

また、留寿都村では、「ルスツ四季の彩り」写真展の開催や英語版HPの開設、観光パンフ作成を実施し、ニセコ町では、サミットを契機に英語、中国語、韓国語版HPの開設や外国語版観光パンフレットの増刷を実施し、地域の情報発信を行った。

イ 歓迎気運の醸成

(ア)カウントダウンボードの設置

推進会議は、サミットの開催に向け、管内の歓迎気運を盛り上げるため、ようてい森林組合の協力により後志合同庁舎前に羊蹄山を象ったカウントダウンボードを設置し、除幕式を行った。



除幕式に出席する推進会議会長宮谷内蘭越町長、宮木後志支庁長ほか(H19.7.23)

(イ)歓迎装飾の取組

サミット歓迎気運の醸成やサミット関係者を

歓迎するため、留寿都村、真狩村、ニセコ町、倶知安町では、民間企業の協力のもと北海道電力の電柱に歓迎広告や各国旗を飾るなどサミット直前に重点的な歓迎装飾を実施した。また、倶知安町では町内の宿泊施設に長期滞在する警察部隊、消防隊、電気・通信関係者、報道関係者など大勢の方々をあたたかく迎えるため、5月下旬から町内各所で官民をあげてサミットを歓迎する装飾を実施し、黒松内町では、庁舎への懸垂幕掲出や中心市街地でののぼり設置、町商工会による歓迎ポスターの各戸配布を行いサミットに向け住民の気運醸成を図った。



写真左：黒松内町庁舎、右：JR 倶知安駅前歓迎塔（倶知安町）



歓迎ポスター（倶知安観光協会、倶知安商工会議所、羊蹄山麓地区安全協力会）

ウ おもてなしの充実

（ア）クリーンアップ運動

サミットで管内を訪れる国内外の関係者をゴミのないきれいな環境でお迎えするため、平成20年5月23日（金）、後志支庁、留寿都村、喜茂別町の共催により国道230号沿線の清掃活動を地域住民が行う「しりべしクリーン作戦」を実施したほか、京極町では、5月10日（土）に町一円で「京極町民ボランティアのつどい」でゴミ拾いを実施するなどクリーンアップ運動を展開した。

（イ）花いっぱいでお迎え

サミットの開催にあたり、おもてなしの心と美しい花々で来道する方々を歓迎するため、管内各地で「花いっぱいでお迎え」の取組を実施した。

・「花いっぱいでお迎え」主な取組一覧

行事名	内容
ようていポテトサミット35（留寿都村）	サミット開催及び「国際イモ年」にあわせて36品種のじゃがいもの見本畑を設置。 《オープニングセレモニー》 ・開催日 平成20年6月25日（水） ・場 所 留寿都村道の駅「230ルスツ」前農場 ・主 催 ようてい農業協同組合 ・参加者 約70名
「花いっぱい」のニセコ景観づくり（ニセコ町）	景観を活かした地域づくり活動にあわせ、まちの顔である中心市街地「綺羅街道」でのデザイン性の高い花の植栽の実施や国道5号線ビューポイント駐車場等町内各地区での花の植栽。 ・実施時期 5月～9月 ・実施主体 NPO法人ニセコまちづくりフォーラム、町内会等
サミット歓迎花壇整備事業（喜茂別町）	国道230号市街地区町有地における菜の花等のウエルカム花壇及び留寿都村民との協働によるG8各国旗パネルの整備。国道230号、国道276号沿道への花の植栽。 ・実施時期 5月～7月 ・実施主体 きもべつフラワーストリート実行委員会（町民有志）、一般町民
廃屋撤去、廃屋飾りの実施（留寿都村）	国道230号から見える国際メディアセンター付近（泉川地区）に乱立する廃屋の解体撤去工事及びフラワーパーテーションによる装飾。 ・実施時期 6月 ・実施主体 村、村建設業協会、村観光協会



写真左上：ようていポテト
サミット35見本畑、右上：
綺羅街道の「花いっぱい」
の取組、左下：ウエルカ
ム花壇とG8各国旗

(ウ)サミットメニュー

推進会議が後志支庁管内にあるレストランに働きかけ、地域の食材をメインとしたメニューを「サミットメニュー」として創作していただき、地域の食材をPRした。

店舗名	メニュー
ルスツリゾートタワーホテル 「ラウンジアトリウム」	朱姫南瓜のニョッキとサミットスペシャル健康ドリンク
ニセコ東山リゾート 「レストランボーセジュール」	ディナーバイキングにて各種提供
名水うどん「野々傘」	一葉味噌釜うどん
ホテル甘露の森 「レストランクニネット」	じゅうごばあの手作りニョッキ、サミットニョッキとまと味
道の駅230ルスツ 「お食事処230ルスツ」	サミット定食(ルスツ名物ながいもコロケとルスツ豚の甘みを生かしたねぎ塩焼き)

(エ)駐日フランス大使歓迎セレモニー

共和町では、町出身の西村計雄画伯がフラン

スで活躍されていたことから、サルコジ・フランス大統領を迎える取組を実施し、サミット期間中の平成20年7月8日(火)、フィリップ・フォール駐日フランス大使夫妻に来訪いただいた。

町では、フィリップ・フォール駐日フランス大使夫妻をおもてなしする歓迎セレモニー、パリの市木・マロニエの記念植樹、西村計雄記念美術館での絵画鑑賞やチーズパーティーなどのプログラムを実施し地域住民との交流を行った。



記念植樹したパリの市木である「マロニエ」を前に、小中学生と記念撮影

エ 環境イベント等の実施

(ア)環境行動等の促進

環境・気候変動が主要テーマとなったサミットの開催を契機に、地域における環境意識の高まりを形あるものにするため、様々な取組を行った。

・「環境行動等の促進」主な取組一覧

行事名	内容
しりべつ川で遊び隊！～身近な自然から環境サミット～(後志支庁)	尻別川流域でのカヌー体験や観察・捕獲調査を行う「清流体験」と、自分たちが、環境のために今後取り組むべきことなどを話し合う「しりべし子ども環境サミット」を開催。 ・開催日 平成20年6月14日(土) ・場 所 倶知安町尻別川流域、後志支庁 ・主 催 後志支庁 ・参加者 羊蹄山麓周辺町村の小中学生19名
しりべしエコチャレンジ「小さなことから始めよう！」(後志支庁)	後志合同庁舎に勤務する職員自らが「小さなことから始めよう！」を合い言葉に、環境に配慮した取組を7月1日から実践
E'co suttu 2008(寿都町)	平成20年度を「環境保全元年」と位置付け、「地域でできること」を合言葉に、年次計画による植樹事業の展開や海岸クリーンアップ、ビーチコーミング、地引網、エコーク、エコライブや植樹などを実施。 ・開催日 平成20年5月11日(日) ・場 所 寿都町浜中海岸と周辺の森 ・主 催 寿都町 ・参加者 町内小中高生の約400名、一般の参加者約150名 合計約550名
ガイアナイトの取組(黒松内町)	「くろまつない」の文字に210本のろうそくを灯し町民が集い、ろうそくの光の中でまちの未来について語り合った。 ・開催日 平成20年7月7日(月) ・場 所 黒松内町東山公園スキー場 ・主 催 黒松内市街地にぎわいプロジェクト



写真左上：しりべつ川で遊び隊、右上：E'co suttu 2008、左下：黒松内町でのガイアナイト

(イ)記念植樹

地球環境問題を主要テーマとするサミットを記念し、後志管内住民に地球温暖化防止・環境保全としての森林の役割を再認識してもらい、森づくり活動の継続的推進を図ることなどを目的に管内各地で記念植樹が実施された。

・「記念植樹」主な取組一覧

行事名	内容
記念植樹	サミットの成功を祈念して実施。 ・開催日 平成20年6月23日(月) ・場 所 倶知安町後志合同庁舎前庭 ・主 催 実行委員会、後志支庁 ・出席者 実行委員会会長、後志支庁長
北海道洞爺湖サミット記念「森・川・海」環境森づくり植樹会in留寿都	クリーンラーチの植栽を実施。 ・開催日 平成20年6月7日(土) ・場 所 留寿都村ふるさと公園 ・主 催 北海道洞爺湖サミット記念「森・川・海」環境森づくり植樹in留寿都実行委員会 ・参加者 後志支庁管内市町村長・議長、農・林・漁業団体関係者など約60名
北海道洞爺湖サミット記念植樹祭inおたる(小樽市)	植樹祭、講演会(前日)にあわせて、コンサートや子ども向けのショー、自然観察ウォーク、水道施設見学会などのイベントを実施。 ・開催日 平成20年6月29日(日) ・場 所 小樽市朝里ダム湖畔園地 ・主 催 “北海道”千年の森プロジェクト、小樽市 ・参加者 小樽市民ほか約1,300名
北海道洞爺湖サミット記念町民植樹会(蘭越町)	町民参加による植樹会や町民から募集した「森の名前」と「標語(メッセージ)」の表彰式を実施。 ・開催日 平成20年5月24日(土) ・場 所 蘭越町向山スロープ ・主 催 蘭越町 ・協 力 後志森づくりセンター ・参加者 蘭越町民ほか約300名
北海道洞爺湖サミット開催記念植樹(京極町)	サミット開催を記念して植樹を実施。 ・開催日 平成20年5月10日(土) ・場 所 京極町スリーユーパーク・パークゴルフ場 ・主 催 京極町森と緑の会 ・協 力 後志森づくりセンター、京極町林友会 ・参加者 みどりの少年団や町内会長など約50名



写真左から北海道洞爺湖サミット記念「森・川・海」環境森づくり植樹会 in 留寿都、北海道洞爺湖サミット記念植樹祭 in おたる、北海道洞爺湖サミット記念町民植樹会、北海道洞爺湖サミット開催記念植樹

第8章 消防・保健医療

1 消防

(1) 目的

サミットの開催に当たり、サミット関連施設等における火災等の未然防止と災害発生時の消防活動に万全を期するため、消防・救急体制を構築し、各国首脳等の安全を確保する。

(2) サミット開催までの取組

今回のサミットは平成12(2000)年九州・沖縄サミットと同様の地方開催であり、開催地域を管轄する地元消防本部の消防力だけでは、十分な対応が困難であることから、道内はもとより、全国的な広域応援によって、災害の未然防止や被害の軽減を図り、道内市町村がサミットにおける消防責任を果たしていく必要があった。

平成19(2007)年8月には、道総務部危機対策局防災消防課内にサミット消防警戒担当2名を配置し、サミット消防特別警戒に必要な準備作業を行うこととした。

10月11日(木)、総務省消防庁内に消防庁次長を委員長とする「北海道洞爺湖サミット消防・救急対策委員会」(以下、「サミット消防・救急対策委員会」という。)が設置され、応援体制、応援経費等について協議がなされ、東京消防庁をはじめ道外の各政令指定都市等の消防本部から約300名の消防職員の応援出動が確認された。

この委員会には、警防部会と予防部会が設置され、警防部会においては、サミット期間中における警防活動(火災、救急、救助活動)計画の策定、予防部会においては、予防活動(事前査察、訓練指導、期間中の予防警戒活動)計画を策定することとなった。

11月8日(木)、道及び道内消防本部がサミット消防特別警戒に関する様々な情報等を共有し、課題を検討していく場として、サミット開催地消

防本部と全国消防長会北海道支部各地区長を務める消防本部で構成する「北海道洞爺湖サミット消防警戒対策連絡協議会」を立ち上げた。

11月14日(水)、サミット消防・救急対策委員会第1回予防部会が開催され、サミット主要施設等の概要について説明があり、予防警戒の方針が示された。

11月21日(水)、サミット消防・救急対策委員会第1回警防部会が開催され、消防警戒系統図や勤務体制及び部隊の編成、サミット警戒期間中における通信体制の概要が示された。また、道内サミット関係各消防本部の取組状況についての説明も行われた。

平成20年1月16日(水)から3月18日(火)にかけて、道総務部危機管理監が道外応援消防本部の消防局長及び市長等に対し、北海道洞爺湖サミット消防特別警戒における消防職員等の派遣について協力を要請した。

2月21日(木)、第2回予防部会が開催され、消防特別警戒共通事項や予防計画、各種要領等がまとめられ、続く2月29日(金)に開催された第2回警防部会では警防計画が示され、現地警戒本部ごとに配置される消防車両と消防職員の警戒体制等がまとめられ、3月11日(火)に開催された第2回サミット消防・救急対策委員会において、予防・警防計画が承認された。

3月14日(金)には、全国的な応援体制整備のため、道内68消防本部と道外13消防本部との間で「北海道洞爺湖サミット消防・救急体制整備に関する応援協定」が締結された。

3月には、4月から開始する予防事前対策の円滑な実施を図るため、地区警戒本部との連絡調整をはじめ、現地での事前実態調査、警戒対象施設関係者との打ち合わせ等が行われた。

4月からは、警戒対象施設に係る建築構造をはじめ、防火管理体制の状況、消防用設備の現況等、予防警戒活動に必要な情報の確認及び実態把握を

行った。

5月から6月にかけては、警戒対象施設関係者に対して、火災等災害発生時における初動対応要領(通報、初期消火、避難誘導及び消防用設備等の取扱等)についての消防訓練指導を3回行った。

5月12日(月)、サミット期間中における要人等の救急対応が主にヘリコプターで行われることが想定されたことから、消防ヘリ運航に係わる現地調査を行った。

5月21日(水)には、国際メディアセンターが設置されるルスツリゾートにおいて、また、6月15日(日)には、サミットの主会場となるザ・ウィンザーホテル洞爺と各国政府代表団の宿泊施設となる洞爺パークホテル天翔において、道内外の応援部隊の隊長が見守る中、それぞれホテル上層階の客室から出火し、逃げ遅れた宿泊客がいるとの想定で、消防事前訓練を実施した。

さらに、5月22日(木)から6月20日(金)にかけては、各警戒場所において応援部隊の隊長による警戒現地調査等を実施し、本番に備えた。

6月28日(土)には、道外から派遣される消防車両24台が東京港から出港し、30日(月)に室蘭港に入港した。

サミット消防特別警戒が開始された7月5日(土)には、道内からの出動消防本部のほか、道外応援消防部隊についても続々と道内に到着、サミット消防特別警戒の開始に先立ち、サミット警戒に向けた消防職員の士気高揚を図るため、15時から伊達市「だて歴史の杜」において、消防職員約500名、消防車両33台、消防ヘリ2機が集結し、結団式を行った。

結団式終了後はサミット消防特別警戒にあたるため、それぞれの配置場所に向かい、17時から消防特別警戒が開始された。

(3)サミット消防特別警戒の体制等

ア 実施期間

平成20年7月5日(土)17時から7月11日(金)9時まで

イ 警戒体制

出動消防本部40(道内27、道外13)、消防車両74台、消防ヘリ3機、消防職員796名(警戒要員714名、予防要員82名)

ウ 警戒対象施設等

ザ・ウィンザーホテル洞爺、洞爺湖温泉街の主な宿泊施設、国際メディアセンター、新千歳空港、道央自動車道、登別温泉街、手稲溪仁会病院(札幌市内)、その他首脳等の訪問先。

エ 警戒体制の概要

(ア)統括警戒本部

西胆振消防組合消防本部の3階にサミット消防特別警戒を統括する統括警戒本部を設置し、統括警戒本部長には札幌市消防局長を充てた。統括警戒本部には警戒支援隊を置き、支援隊長に東京消防庁警防部参事、警戒支援副隊長には札幌市、小樽市、釧路市の指揮隊長等を充てた。また、統括警戒本部に統括官、調整官を置き、統括官には消防庁消防・救急課長、調整官には北海道総務部危機管理監を充てた。

(イ)地区警戒本部

統括警戒本部の下に西胆振地区、羊蹄山ろく地区、札幌地区、苫小牧地区、室蘭地区、千歳地区、登別地区の7地区警戒本部を置き、地区警戒本部長にはそれぞれの所轄消防本部の消防長を充てた。

(ウ)現地警戒本部

警戒対象施設等の直近に警戒隊員、消防車両を配置した8つの現地警戒本部を置き、現地警戒本部長には各指揮隊長を充てた。

(エ)警防部隊

現地警戒本部では、警戒隊員及び消防車両を配置して2交代24時間体制で警戒活動を実施した。また、主会場における緊急事態に迅速に対応するため、救急隊の一部は主会場のホテル

にも配置した。

(オ) 予防警戒

警戒期間中、予防警戒員はサミット関係施設内の防災センターに常駐し、災害の未然防止と事象発生時の即応体制の確保を図った。

オ 警戒部隊の活動等

(ア) 救急搬送

警戒対象施設における警戒期間中の救急出動件数は5件あり、そのうち救急搬送が3件、救急隊による現場処置事案が2件あった。救急搬送のうち、アウトリーチ国としてサミット拡大会合に出席していた要人の救急搬送が1件あり、今回策定した警防計画や救急マニュアル等に基づき、関係機関とも緊密な連携のもと、複数の消防ヘリ及び救急車の活用により札幌市内の病院ヘリレー搬送した。

本件については、過去のサミット消防特別警戒においても例を見ない救急事案であり、消防として所期の目的を十分に達成することができた貴重な活動となった。

(イ) 自動火災報知設備等の作動

予防警戒員が、サミットに関連する10対象施設において対応した事案の総件数は34件あった。このうち、自動火災報知設備の非火災報が9件、防火戸の作動を知らせる警報が9件、ガス漏れ警報装置の警報が1件、その他警備機器等の警報により現場確認を行った事案が15件あった。いずれの事案についても、予防警戒員が迅速に現場に赴き、異常の有無と原因究明に当たった。

(4) まとめ

今回のサミット消防特別警戒では、2000年九州・沖縄サミットの警戒体制をモデルに広域的な複数の消防本部の連携による必要な体制の整備を行った。サミットの円滑な運営に万全を期するという共通の目的に向かい、市町村消防、道、国の

三者が一体となって協力して取り組み、所期の目的を達成した。

(5) サミット終了後

サミット終了後の9月10日(水)、サミットの消防特別警戒を実施し、災害の未然防止に尽力し円滑な運営の確保に多大な貢献があったとして、40消防本部(道内27、道外13)に対し、消防庁長官から褒状が授与された。

この他、サミット開催期間中に発生した救急事案に際し、劣悪な飛行条件等のなか、陸上部隊と航空部隊が緊密に連携し、迅速な任務遂行を行った航空隊等に対して、消防庁長官から表彰状が授与された。

また、道からも、消防特別警戒実施にあたり、関連施設等の警戒活動や関係者への訓練指導等の予防活動を実施するなど、その活動がサミットの成功に大きく貢献した道外13消防本部に対し、9月10日付けで知事感謝状を贈呈した。

2 保健医療

(1)概要

サミット開催期間中は、各国の政府関係者や報道関係者、消防・警察関係者等が多数来道し、開催会場等周辺に人口が集中するため、サミットの円滑な実施に向けて、サミット参加者等の健康被害の未然防止及び緊急時の対応を求められたことから、平成19年10月、北海道洞爺湖サミット推進本部に6つの対策班からなる保健医療対策部会(部会長：北海道保健福祉部長)を設置し、サミットにおける保健医療体制の確立を図った。

(2)各対策班の取組

ア 開催前

【総務班(保健福祉部総務課)】

各対策班の進捗状況の確認や厚生労働省をはじめとする関係機関との連絡調整等により、必要な体制の整備を図った。具体的には、部内各課及び関係保健所への協力要請、IDカードの申請・配付、緊急時連絡網の作成・周知等、主に各対策班に共通する業務に当たった。

【救急医療対策班(医療政策課)】

サミット参加国首脳や、政府関係者・報道関係者・警備関係者等に対する救急医療体制を確立するため、札幌市内及び主会場周辺に受入医療機関を確保することとし、北海道医師会や関係郡市医師会の協力を得て、道と国との共催で、関係機関を招集し5回にわたり現地医療対策準備会合を開催した。会合においては、サミットにおける救急医療体制の概要説明及び受入医療機関等に対し、診療体制の確保などの協力依頼を行った。

また、平成20年5月、「北海道洞爺湖サミット救急医療対策要領」を策定し、救急医療体制の確保のための方針を定めた。

【感染症対策班(健康推進課)】

感染症対策について、次のとおり諸対策を実施した。

・感染症発生情報の収集体制強化

生物テロを含む感染症の発生をより確実に把握するため、サミット会場周辺地域において、疑似症患者の届出を行う医療機関を拡大する「疑似症サーベイランス*の強化」を行った。

また、国立感染症研究所が実施する救急搬送時における患者の症状等の情報収集を行う「救急車搬送サーベイランス」と「疑似症サーベイランス」との一体的な運用を行うことにより感染症発生情報の収集体制の強化を行った。

・感染症発生予防対策

首脳会議場及び国際メディアセンターの主要施設や会場周辺の宿泊施設等に対して、感染症予防等に関するリーフレットを配付したほか、主要施設の調理員等食品従事者に対する行政検査(検便)を実施した。

・感染症医療機関等の確保

一類若しくは二類感染症の発生に備えて、第一種及び第二種感染症指定医療機関の病床確保を行ったほか、会場周辺で集団感染が発生するなどの不測の事態に対応するため、道立苫小牧病院(陰圧結核病床)を活用した患者受入体制の整備を行った。

・感染症発生時の対策

一類若しくは二類感染症のうち、飛沫・接触感染のおそれがある患者が発生した場合に備えて、患者移送用陰圧装置(アイソレーター)搭載車両を室蘭保健所に配備した。

【食品衛生対策班(食品衛生課)】

食品衛生対策として、平成20年3月に策定

* サーベイランス：疾病の発生状況やその推移などを継続的に監視すること。

した「サミット食品衛生監視計画」に基づき、首脳会議場及び国際メディアセンターなどの主要施設、政府関係者等の宿泊施設、警備等に供給する弁当の製造施設、土産品の販売・製造施設など合計約800施設を対象として、道と保健所設置4市(札幌市、旭川市、函館市、小樽市)が連携の上、監視指導や食品等の検査、講習会の開催などを短期間に集中的に実施し、提供食品の安全確保及び食中毒の発生防止を図った。

また、環境衛生対策として、平成20年3月に策定した「サミット環境衛生監視計画」に基づき、主要施設の他、サミット関係者の宿泊施設等を対象として、旅館業法等に基づく各種基準の適合状況について点検、指導を実施し、施設の衛生確保などを図った。

【血液・医薬品対策班(医務薬務課)】

血液製剤、医薬品の供給及び毒物劇物に起因する危害発生防止についてそれぞれの対策要領を策定し、北海道赤十字血液センター及び道内医薬品卸売業者等と連絡会議を設置し、諸対策の準備を進めてきた。

・血液製剤の供給対策

北海道赤十字血液センターの協力を得て「北海道洞爺湖サミット血液対策連絡調整会議」を7回開催するとともに、平成20年6月に「北海道洞爺湖サミット血液対策要領」を策定し、サミット開催期間中の必要な血液製剤の在庫量の確保及び医療機関からの緊急供給要請に対し、迅速に輸送できる体制等の整備を推進した。

・医薬品の供給対策

サミット開催期間中の医薬品等の供給については、道が保有している緊急用のワクチン・抗毒素及び常時備蓄している災害時医薬品等に対応するほか、テロ災害用の解毒剤等について必要量を確保した。

また、道内医薬品卸売業者等の協力を得て

「北海道洞爺湖サミット医薬品対策連絡調整会議」を開催するとともに、「北海道洞爺湖サミット医薬品供給対策実施要領」を平成20年6月に策定し、緊急時に必要な医薬品の確保と迅速な供給体制等の整備を推進した。

・毒物劇物対策

平成20年3月に策定した「北海道洞爺湖サミット毒物劇物対策要領」に基づき、全道の保健所において、毒物劇物営業者等に対して立入検査を実施し、適正な販売手続及び盗難・紛失防止のための必要な措置等の遵守について指導を徹底した。

また、警察、消防及び市町村等の関係機関との連携体制の整備を進めた。

【水道対策班(環境生活部環境保全課)】

水道に対するテロ等による事件・事故の未然防止を図るとともに、緊急事態発生時において迅速に対応できる体制を構築するため、主に次の対策を実施した。

- ・北海道洞爺湖サミット水道対策連携会議開催(関係保健所、水道事業者等が参加)
- ・立入検査の実施(バイオアッセイ(魚類を用いた毒物監視)、水道施設への侵入・毒物投入防止措置の徹底等を重点的に指導。サミット主要施設は厚生労働省と合同で立入検査実施)
- ・水質検査体制の確保(衛生研究所、室蘭保健所・倶知安保健所)
- ・バイオアッセイ監視魚異常時の判定体制の確保(栽培水産試験場、水産孵化場)
- ・北海道洞爺湖サミット水道危機管理実施要領の策定
- ・洞爺湖町との合同訓練の実施(水源への毒物投入の不審電話を想定)

イ 開催期間における対応

7月6日(日)から10日(木)までの開催期間中は、各対策班執務室及び関係4保健所(千歳、

室蘭、苫小牧、倶知安。以下同じ。)において、緊急時に備え、24時間連絡体制を確保した。

なお、救急医療対策班については、洞爺湖町内の現地医療対策本部において24時間体制を執り、各対策班との情報共有を図った。

《関係4保健所の選定理由》

- ・千歳～新千歳空港管轄
- ・室蘭～ザ・ウィンザーホテル洞爺管轄
- ・苫小牧～ザ・ウィンザーホテル洞爺近郊
- ・倶知安～国際メディアセンター管轄



国際メディアセンター内救護所にて

【総務班】

開催期間中、毎日9時及び17時現在の健康被害発生状況について関係4保健所から定時報告を受け、集約した結果を現地医療対策本部、厚生労働省、北海道洞爺湖サミット推進本部等関係機関と共有し緊急時に備えた。集約に当たっては、アウトリーチ諸国の首脳等が多数滞在した札幌市保健所と連携し情報共有を図った。

なお、当該定時報告において健康被害の発生はなかった。

今回のサミットにおいては、各対策班の的確かつ着実な取組により、概ね適切な保健医療体制が確保された。

なお、特に留意を要する点としては、①緊急時における立入制限区域への立入方法、②受入医療機関の警備のあり方について、早い時期から関係機関と連携し、必要な情報の収集及び体

制の確保を図ることが挙げられる。

【救急医療対策班】

道内外から、約160名に及ぶ医師等の派遣を受けて、札幌市内に4受入医療機関、主会場周辺に9受入医療機関、その他要所に3救護所、モバイルICU*を配置するとともに、札幌市内への搬送手段としてドクターヘリ2機を配備した。

また、救急医療体制を統括するため、国との協働により、洞爺湖町に現地医療対策本部(本部長：厚生労働省医政局長)を設置し、北海道保健福祉部長が副本部長の役割を担うとともに、連絡員として本庁職員27名を本部のほか受入医療機関、救護所等に配置して、道内外から派遣された医師等チームの支援及び本部と配置先との情報伝達等を行った。

本部では、7月6日(日)から9日(水)までの毎日9時及び18時に救急医療情報の集約を行い、この間、受入医療機関及び救護所から本部へ報告された救急患者数は63名であった。7月7日、首脳クラスの救急患者1名が発生し、消防防災ヘリコプターにより札幌市内の受入医療機関へ搬送した。その他の救急患者は、すべて外来の処置・治療で終了した。

今回のサミットにおける救急医療は、概ね適切に確保された。道内外から派遣された医師等チームはもとより、受入医療機関、消防機関等の練度が高く、迅速でフレキシブルな対応が可能であった。

なお、空路での搬送において、ドクターヘリを搬送の第一手段にすることについては、天候に左右されやすいこと、また搭乗人員が消防防災ヘリコプターなどに比べて制限され

* 移動式集中治療室。酸素テントや人工呼吸器などのほか、各種のモニターや記録装置を備え、医師・看護師のチームにより構成。

ることなどから、柔軟に検討する必要があるものと考えられる。

国内のサミットにおいて、初めて首脳クラスの救急患者が発生したが、各機関の連携により迅速な搬送が行われたことについて、貴重な事例として、今後の対応においても有効に活用されるものと考察する。

【感染症対策班】

感染症が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるよう感染症指定医療機関等との間の連絡体制の下、緊急時の対応に備えた。

サミット会場周辺地域において実施した疑似症サーベイランスの強化については、サミットの開催前2週間から開催後1週間(6月23日から7月16日)までの24日間実施した。

実施期間中、道は、医療機関からの報告を集約し、国立感染症研究所へ報告、国立感染症研究所は、疑似症サーベイランスのほか、救急車搬送サーベイランス等のデータを取りまとめて報告書を作成し、毎日、定時に厚生労働省、道、関係郡市医師会など関係機関・団体へ情報提供を行った。

また、国立感染症研究所においては、救急車搬送が多発するなどの疑い事例が発生した場合には、道と連携して状況確認を行い、その結果についても関係機関へ情報提供を行った。

感染症対策については、厚生労働省や国立感染症研究所と十分に調整を行い、必要な対策を進めることができた。

特に、感染症発生情報の収集については、疑似症サーベイランスと救急車搬送サーベイランス等との一体的運用により、収集情報への迅速な対応を行うとともに、休日も含めた関係機関・団体との情報共有体制の確立により、実施期間中、毎日、定時に関係機関・団体に有用な情報を提供することができた。

また、疑似症サーベイランスの実施をはじめ、

感染症の予防対策、発生時の対策等については、関係機関・団体の協力を得ながら進めたところであり、こうした取組の結果、緊急対応を要する重大な感染症事案の発生を見ることなく、対策を終えることができた。



現地医療対策本部の様子

【食品衛生対策班】

サミット開催前及び開催期間中に関係者及び関連施設に食中毒を疑う事例が発生した場合に迅速かつ的確に調査や検査が実施できるよう、平成20年6月に「サミット食中毒対応マニュアル」を策定し、緊急連絡体制を整備するとともに、開催期間中は近隣保健所等からの応援体制を含め、関係4保健所に食中毒調査に必要な人員を待機させるなどの特別体制を整備した。

首脳会議場及び国際メディアセンターなどの主要施設をはじめ、その周辺の政府関係者等の宿泊施設に至るまでの全ての宿泊施設において、また、4月からサミット終了時までの期間に警備等に提供した延べ約52万食に及ぶ弁当において、食中毒事件は疑いを含め1件の発生もなかった。このことは、関係保健所がHACCPの考え方に基づく衛生管理を基本として、短期間に監視指導や食品等の検査を効果的に実施するとともに、各施設自らが衛生管理の強化に積極的に取り組んだ成果であり、また、首脳会議場や国際メディアセンターなどの主要施設を抱える地域において、外国や道外からの来訪者を万全の体制をもって迎え入れる気運が醸成された

結果であると言える。

今回の食品衛生及び環境衛生への取組を契機として、各施設及び各地域において、なお一層の衛生水準のレベルアップが継続的に図られ、北海道全体が安全・安心を掲げる観光地として、また、国際会議などの開催地として、さらに付加価値を高めていくことが望まれる。

【血液・医薬品対策班】

開催期間中は、関係機関と連携し24時間緊急対応ができる体制を備えた。

・血液製剤の供給対策

開催期間中、北海道赤十字血液センターにおいては、血液製剤について、通常時の適正在庫量の1.4倍の量を確保するとともに、特に外国人に多いRh(-)型の血液製剤については、通常時の適正在庫量の2倍の量を確保した。

また、医療機関からの緊急供給要請に対応するため北海道赤十字血液センター(札幌)及び同センター室蘭営業所(室蘭市)の当直職員を増員するなどして緊急輸送体制を確保した。

なお、開催期間中、サミットに関係する血液製剤の緊急供給要請はなかった。

・医薬品の供給対策

開催期間中、道が保有及び備蓄しているワクチン等の医薬品に加え、テロ災害用の解毒剤等を現地医療対策本部、基幹受入医療機関及び医薬品卸売業者に配備し、緊急時に対応できる体制を整備した。

なお、開催期間中、サミットに関連する医薬品等の緊急供給要請はなかった。

・毒物劇物対策

開催期間中、保健所、警察、消防及び市町村等の関係機関相互における毒物劇物による危害発生時の迅速な情報収集、提供体制を整備し、緊急対応に備え、開催期間中、毒物劇

物の盗難等の事故発生報告はなかった。

血液及び医薬品対策においては、関係機関の協力により連絡体制を確保できた。

北海道赤十字血液センターにおいては、血液製剤の中で不足が予測されるRh(-)型について、道外の赤十字血液センターと需給調整し、必要量を確保することができた。

今回のサミットに向けて、緊急用ワクチン・抗毒素及びテロ災害用の解毒剤を確保したが、特にテロ災害用の解毒剤は、日常的に使用しない医薬品等も含まれており、今後、備蓄方法等について検討する必要がある。

また、基幹受入医療機関及び医薬品卸売業者については、各種解毒剤等の備蓄に協力をいただいたが、解毒剤等の必要量の確保など、その体制整備に当たっては、厚生労働省、(財)日本中毒情報センター及び道との役割分担をより一層明確にする必要があった。

毒物劇物対策については、今回のサミットに限定して、対策要領を作成し毒物劇物に起因する危害発生時や危害発生 of 未然防止に係る対応を実施したが、今後も、引き続き健康被害防止対応として、継続する必要がある。

【水道対策班】

開催期間中は現地調査、対策検討等の役割分担を定めたチーム編成を行い緊急事態の発生に備えた。

道庁内に待機する厚生労働省水道課職員と連携して、主会場及び各国代表团宿泊施設等からの定時報告を受けて情報収集を行った。

また、緊急時の水質検査及びバイオアッセイ監視魚の判定に備え、職員の24時間連絡体制を確保した。

なお、期間中においてはサミットに係る水道事故の発生はなかった。

今回の取組における成果として、サミットを機に対応マニュアルの整備やバイオアッセイに

よる水質監視が実施される等、本道における水道の危機管理体制の充実が図られた。

今後の課題としては、要人の訪問先や警察による水道施設の警備内容、交通規制及び緊急時の通行方法が直前まで判明せず、対策を講ずるべき規模や範囲の設定を効率的に行うことができなかった。また、開催地周辺は中小規模の水道事業者が多く、サミットのために配置した警備員や水質管理等のための費用負担が大きいものであったことから、サミット主催者である国による財政的支援が望まれる。



現地医療対策本部の様子

北海道洞爺湖サミット 実施体制概念図

